

平成25年度 第22回建築作品・新潟県賞 奨励賞 (株)高田建築設計事務所 (長岡市)

完全分離型2.5世帯住宅

街家町家

それぞれの世代のアドミレーション・・・憧れ・・・



濃い茶に着色したバインの床材や羽目板廻りの天井、耳座土クロス、各子の組み合わせで京町家を再現したLDK。各階は区画から路地を挟んだ離れにある。

街家町家のコンセプト

普通は、街の中に住まいをつくる。
ここでは、街の中の住まいの中に街をつくる。

この住まいは、両親（父+母）+長女と長女の子（子）、長男夫婦（夫婦）が暮らす、完全分離型2.5世帯住宅。
それぞれの世代が、それぞれのアドミレーション（憧れ）を主張する。

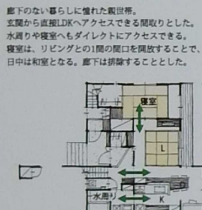
各世帯の想いを様々な相乗させながら全体を形造っていき、現代の世相を反映すべく、多元的同時性の空間を追及してみた。

私達は、発想の逆転をし、住まいの中に小さな路地を造り、住まいの中に街を創る手法で、アドミレーションを繋ぎ合わせた。
その延長線上に、長男世帯のアドミレーション「京町家」エリアでは、住まいの中に、うなぎの路地を造り、京都の町家めくりを実現させた。

それぞれの世代のアドミレーション・・・憧れ・・・

父の憧れ

昔、流行った邸取りに暮らしたい。何処へ行くにも廊下があり、何処へ行くにも扉が付いている。
こんなに小さな家なのに。



長女世帯の憧れ

ナチュラルでもなく、和でもない。
わたしは、可愛い家がいい。



可愛い空間から見たスリット窓は、外部からは町家の虫籠窓（むしこまど）となる

若夫婦世帯の憧れ

京都の町家に暮らしたい。色の濃い格子があり、色の濃い床板がある。
ピカピカではなく、時が経ち成す色合いの空間で暮らしたい。そして、町家のなかを歩くように。



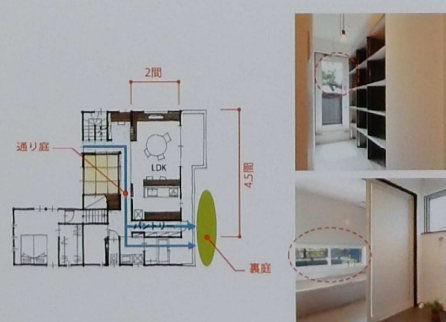
発想の逆転

街に暮らすのではなく、住まいの中に路地をつくり、街をつくらばよい。
そう、うなぎの寝床（ぬい床）のような路地をあえてつくりますのである。
街は平面でなくとも良い。立体的にゾーニングすれば成立立つ。



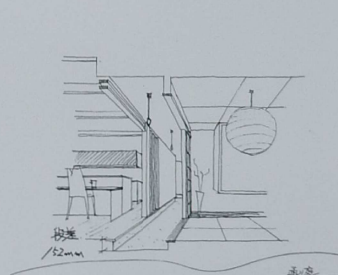
町家の手法と裏庭

絵巻から見る近世初期までの京町家は、間口2間～3間、奥行4間程度のものが多くと推測された。
よって、生活の中核部分、LDK+パントリーは間口2間 × 奥行4.5間とし、町家の原点を埋め込んだ。
また、町家の多くには裏庭が存在する。玄関から裏庭までの土間の部分は通り庭と呼ばれ、風や光の通り道として重要な役割を果たしていた。



現実との戦いとタイムスリップ

現代では、バリアフリーが当たり前となり、基本的に住まいの中から段差が消えていった。そして、様々な建材・材料は、メンテナンスフリーが主流となっている。本町の町家を再現してみよう。人々は草履でぬい路地や土間を歩き、草履を履いて段差のある家へと「よいしょっ」とあがる。路地は凸凹の道。土間はヒビ割れが風情を物語る。



音へのchallenge

～音と風呂場～

多世帯が心地よく住まう上で、問題となるのが音。居室や路地などは、防音用のALC版を28mmの構造用合板の上に貼ることにより、大人の足音等の特に重量衝撃音・生活音等は、基本的にシャットアウトされる。（断面図参照）
私達が拘ったのは風呂場。

街家町家では、2FのUBの下は、親世帯のDKとなる。脱衣室に納めるには、ALC版の上にユニットバスを載せれば良い。
脱衣室から入ってUBに入れば良い。しかし、ALC版の上にUBを置く、UBのFLが脱衣室のFLより高くなってしまう。京町家時代（昔）の風呂場は、必ずと言っていいほど風呂場のFLが下がっていた。最低限、UBのFLと脱衣室のFLはフラットにしないといけない。考案の結果、断面図のような組合せを選択した。ロックウール（吸音材）+構造用合板・シーリングボード・遮音パネル。3種類の性能の異なるボードを重ね合わせ、UBの下に防音室を造った。
結果、シャワーの音、UBの床を歩く重量衝撃音等、入浴中の音はシャットアウトされた。

